

「そだね2017」がんばっています♡

平成31年3月9日に第1回「そだね2017」総会を開催しました。この会は平成29年度愛知県男女共同参画人材育成セミナー受講生の会です。

総会に出席した9名からは、愛知県女性地域実践活動交流協議会への入会者は6名、男女共同参画審議会委員は2名（春日井市、東海市）と報告がありました。そして、一人二役三役で市の男女共同参画関係団体や自主活動グループに所属し、男女共同参画推進、防災活動、引きこもり家族や高齢者の支援等々幅広く活動されている方がいる一方で、人が集まらず会の存続が厳しいグループに所属されている方や、また、行政や自治会との温度差に困っているなどの苦労話も報告されました。

総会で話し合ったことは、子ども会を始めとして子どもが地域とつながりを持つ機会をなくさないようにする方法についてです。その中で、親の考え方の変化や地域の現状が次々に話題になりました。未来の子ども達のため、忙しい親世代に代わって元気な高齢者に活躍してもらい取り組みを進めていかなければならないと改めて強く思いました。アドバイザーの日置先生より、子どもが小さいうちから組織に所属し社会性を身に付けさせる事が大切だというお話をいただきました。話し合いを通して、子ども達のために何をすべきか、大人の責任とは何か深く考えさせられました。楽しく交流しながら話し合いが進み、有意義な時間を持つことができました。

そだね2017 坪内



ウィルあいち交流ネット参加グループ

- *さわらび会
- *メンズリブ名古屋
- *女性学'98の会
- *メディアの会かたつむり
- *ウィル10
- *グループ・キートス
- *2000女性学の会
- *ウィル2000
- *I. W. L
- *ウィル・ミニ・ボックス
- *ウィルD o 2002
- *平成いちご会
- *きらら2005
- *サーティネット '05
- *バリーズ18
- *Step07
- *トライアングル '08
- *Fem.'09
- *Amelie' 10
- *なでしこAICHI
- *A I C 25
- *ウィルウィル14
- *ひかるよ '15
- *カクラ・カクラ16
- *そだね2017
(設立順)

ウィルあいち交流ネットとは…

ウィルあいちセミナー等の受講修了生による自主活動グループで組織された団体です。



ジェンダー主流化の20年 ～グローバルな枠組みの基本原則に～

(特活) Gender Action Platform 理事 大崎 麻子

日本のトップリーダーが自ら署名し、コミットした3つの国際枠組みを考察しましょう。G7サミット、G20サミット、そして、持続可能な開発目標（SDGs）です。

2018年6月のG7サミットでは、議長国カナダのトルドー首相が主導して設置したジェンダー平等アドバイザリー評議会からの提言を踏まえ、首脳宣言の「ジェンダー主流化」が実現しました。ジェンダーと女性に関する独立項目を掲げただけではなく、すべての項目、「成長への投資」「仕事の未来」「平和と安全保障」「気候変動、海洋、クリーン・エネルギー」に、女性・ジェンダーに関する文言を組み込んだのです。例えば「仕事の未来」の項目には、「職場内外での暴力、差別及びハラスメントの撲滅を含め、女性のリーダーシップ及び労働市場への全側面への平等な参加の機会への障壁を取り除く必要性を認識する」、また、「平和と安全保障」の項目には「女性・平和・安全保障（WPS）のアジェンダの実施を強化することを決意する。テロを予防し撲滅するための女性の参加及び視点を含むジェンダーに配慮した措置は、効果的で持続可能な結果、性的及びジェンダーに基づく暴力からの保護ならびにその他の人権侵害・違反の抑制のために不可欠である」と明記されました。

12月1日にアルゼンチンのブエノスアイレスで採択されたG20サミットの首脳宣言は、冒頭で「仕事の未来、開発のためのインフラ、持続可能な食料の未来、そしてG20のアジェンダ全体としてジェンダーを主流化する戦略である」と宣言しました。「ジェンダー平等は、経済成長及び公正で持続可能な発展に極めて重要である」とし、「女性と女兒に対するあらゆる形態の差別及びジェンダーに基づく暴力を終わらせること」「質が高く安価なケア・インフ

ラや育児休暇へのアクセス等を通じ、全ての人々にとっての労働環境を改善するため、民間部門と共に取り組むこと」「性別による賃金格差を削減すること等により、女性の経済的なエンパワーメントを促進すること」など、具体的な施策へのコミットメントを表明しています。同年10月にW201がマクリ大統領に手渡した提言の多くが首脳宣言に盛り込まれたのです。今年G20議長国は日本。W20の提言書は3月23日に安倍総理に手渡されますが、6月のサミットが採択する首脳宣言にどれだけ反映されるか、世界の女性が注目しています。

最後にSDGsです。日本でも民間企業、自治体、メディアで注目度が高まって来ました。しかし、SDGsのどの目標の取組みにおいても「ジェンダー視点の主流化が必要である」という実施原則の周知は進んでいません。総理を本部長とするSDGs国内推進本部が平成28年12月に発表した「SDGs実施方針」には、「実施のための主要原則」として、「ジェンダー平等の実現及びジェンダー視点の主流化は、分野横断的価値としてSDGsの全てのゴールの実現に不可欠なものであり、あらゆる取組において常にそれらの視点を確保し施策に反映させることが必要である」「ジェンダー統計の充実が極めて重要であり、SDGsの実施において可能な限り男女別データを把握するよう努める」と明記されています。とても画期的な方針です。SDGsに関連した啓発・教育活動、企業や自治体による国内外での取組みに「ジェンダー主流化」のアプローチが浸透し、実行に移され、誰一人取り残さない社会が実現することを願います。

内閣府発行「共同参画」より